

【現代文の出題傾向及び対策】

1、出題傾向（設問内容）

- ・ 本文は分量があるので、正確な速読が求められる。
- ・ 文章の種類として、一般入試では、評論や随想が出題されている。
- ・ 本文を読む際には、大事なポイントに線を引きながら読む。
- ・ 設問タイプは、漢字、空欄補充、文学史、内容説明、内容合致など。

↓《知識問題》漢字問題（読み・書き）、空欄補充、文学史など

《読解問題》内容説明、理由説明、脱文補入、内容合致、表現問題など

《二〇年度 一般入試 二〇二〇年二月二日実施》を例に

一 評論

- | | |
|---------|---------|
| 問1 漢字 | 問2 漢字 |
| 問3 内容説明 | 問4 空欄補充 |
| 問5 空欄補充 | 問6 空欄補充 |
| 問7 内容説明 | 問8 内容説明 |
| 問9 内容合致 | 問10 文学史 |

二 評論

- | | |
|---------|---------|
| 問1 内容説明 | 問2 空欄補充 |
| 問3 脱文補入 | 問4 理由説明 |
| 問5 内容合致 | |

*第一問では、漢字や文学史といった基礎知識の問題が出題されている。覚えていれば得点することができ、合格へと近づくことができる。

*読解力を確認する問題では、傍線部の内容や理由を説明する問題、本文内容との一致を確認する問題などが出題されている。

*このような読解問題に対しては、漠然と傍線部付近だけを眺めて考えるといった場当たり的なやり方ではなく、どの問題でも同じように読んで、同じように解ける《読解法・解答法のスタイル》、つまり、「型」を身につけるべきである。

2、対策

① 知識問題

↓覚えていれば正解・得点できる問題。得点源とすべき。国語便覧や語彙力・漢字の問題集を使って、集中的に取り組む。漢字や文学史といった基礎知識(基幹知識)を養うのは、入試対策のためだけではない。大学入学後の学問研究や自分自身のスキルを高めるためでもある。今からでも対策できる時間は十分に残っているので、計画的にかつ継続的に取り組んでおくべきである。

② 本文読解(読解法と解答法の確立)

↓現代文の勉強方法として、文章によって読み方を変えたり、問題によって場当たりにアプローチしたりするのは、得策とは言えない。たとえ初見の文章であっても、(同じように読み、同じように解く)という「読み方」「解き方」の方法論を理解して、自力で解答作業することができるように準備していく。これが、現代文の勉強である。

③ 過去問題で、知識問題や読解法・解答法の確認・完成

↓立命館大学の過去問題を使って、知識問題や読解法・解答法の確認をしよう。必ず、二周以上解く(本番までに計画を立て実行する)。

- ・一周目↓制限時間を設けずに、ゆっくり解いて「読める・解ける」という解答作業の手順(読解法・解答法)を確認する。
- ・二周目↓時間をはかりながら、はじめて解くつもりで、「時間内完結」を目指す。つまり、解答スピードを確認する。

【現代文の学習 まとめ】

- ① 基礎知識をおぼえる ↓ 漢字、語彙力、故事成語や文学史 など
- ② 読解法・解答法の確立 ↓ 自力で読んで、解ける方法の習得
- ③ 過去問題で確認・完成 ↓ 「時間内」で解けるスピード

《二〇二〇年度 一般入試 第1問 を例として》

【設問解説】

*郡司。ベギオ幸夫『天然知能』による。

二〇二〇年度 一般入試 第1問（二月二日実施）

《ことばのチカラ》

・平静 ・描像 ・糊代 ・デジャブ ・細目 ・知性
・俎上にあげる（のせる） ・野放図 ・メカニズム ・派生

*本文に登場する語句の中で、意味を知っておくべきものを抜き出してあります。自分の言葉で説明できない語句は、辞書などで意味調べをしておきましょう。

《設問解説》

*設問解説中の記号は、S「主語」、P「述語」、KW「キーワード」を示す。

問1【解答】

① のりしろ ② そじよう

*満点クリアできるよう準備しておこう。漢字問題で失点をしないようにしよう。

問2【解答】

③ 野放図（野方図・野放途） ④ 葬

*漢字問題、とくに書き問題では、楷書で丁寧に書き込むこと。

問3

◎設問理解

内容説明の問題。設問指示を確認しよう。傍線部の説明ではなく、傍線部に対する筆者の考えの説明が問われている。

◎メイン要素

① KW「通常、そのように考えるのではないだろうか」チェック↓指示語の指摘
・我が子の死に際し、何もないと思うことは普通でできず、悲しみに耐え、あえて平静を装っている

② KW「筆者の考え」チェック

・亡くなったばかりの我が子のことを淡淡と話す母親、という「わたし」の知覚に自信が持てず、訝しく思う

【解答】 5

*「通常」という一般論に対する筆者の考えを確認させる問題。

問 4

◎設問理解

空欄補充の問題。確実に正解しておきたい問題。空欄補充問題に対するアプローチ（論理的解答法）を、この問いを例題として確認しておこう。

【解答】 3

*空欄直前の「何だろう」と、直後の「知覚できない外部の存在を受け容れる」が根拠。同方向の語句を選ぶ。

問 5

◎設問理解

空欄補充の問題。「一人称知性」を有した人がとるはずの行為を意味するものを選ぶ。

【解答】 4

*直前では「見える部分」の場合を述べている。空欄Bを含む一文と直後の一文で、「もちろんくだ。しかし……だ」という譲歩構文を用いている。次の文で「その場合は、見ていなかっただけで、最初から想定されていた」とあることから、調理器具などを探した場合の「一人称的知性」のあり方を選ぶ。

*この問いでは、語彙力も合わせて問われている。

問 6

◎設問理解

空欄補充の問題。解答部分が空欄部からやや離れているので、時間や労力がかかってしまう危険性がある問題。

【解答】 存在を受け容れる（八字）

*空欄Cを含む一文の構文を確認しよう。Sが「一・五人称的知性」となっていることから、その説明になっている箇所を特定する。第5段落にその説明があり、空欄Aの直後で「それが、知覚できない外部の存在を受け容れる、ということである」と端的にまとめている箇所を発見できる。

問7

◎設問理解

内容説明の問題。「一人称的知性」の説明を同段落から特定し、選択肢チェックする。

◎メイン要素

- ①P 「一人称的知性を有する」チェック
- ・的確な分離を実現できない分離の知性です
 - ・知覚された世界の外部は、存在しないものとみなされますが……記憶の全てが動員されることとなります
 - ・つまり自分のスイーツのリストに存在しない

【解答】 1

問8

◎設問理解

内容説明の問題。「二・五人称的知性」の説明を本文根拠として特定しよう。

◎メイン要素

- ①P 「二・五人称的知性を有する」チェック
- ・スイーツとしては既知、細目としての未知は、区別されるものの、共存し、微妙なバランスを取ることになります
 - ・チーズケーキは、「スイーツであるけど未知の何か」といった感じで、知覚される
 - ・それは、スイーツの既知性を伴った未知性なのです
 - ・「知っているけど、はっきりしないなあ」という感覚が強く伴う

【解答】 2

問9

◎設問理解

内容合致問題。まともにすべてを吟味しようとすれば、時間と労力がかかりすぎてしまう。選択肢チェックに「工夫」をして、スムーズな解答を行おう。

【解答】 5

*5は、本文後半の第17段落以降の内容に合致する。

*この問いに時間を余すことができるように、過去問題で解答スピードの訓練・確認をおこなっておくべきである。決して、余った時間で内容合致問題を解くということがないようにしよう

問10

【解答】 5

本文読解において、筆者の主張にたどり着くための「目印」となるものです。入試本番で、自力で正解するためには、読解法が自分のものとなる（読解法の無意識化）まで、原理を根本理解した上で、本文読解を繰り返すことが必要です。

文章のレトリックに着眼↓筆者の主張を浮かび上がらせる↓SとPをしぼり、線を引く

1、評論
1 具体部と抽象部

- ・ 具体例・比喩・引用は（ ）でくくり、その前後にある抽象部にSとPをしぼり線を引く。
- ・ 具体例の後にづく要約表現や指示語にはとくに注意する。

例文 () たとえば、水星と金星である。 () このように、衛星を持たない惑星もある。

2 否定・比較構文

- ・ 対比によって強調された構文のうち、Sと肯定的に表現されたBに直線を引く。
- (否定) AではなくBだ
- (比較) Aだけでなく(ばかりでなく)Bも

Aよりむしろ(とは違って)Bのほうが

例文 裏の裏の字は、「と」ではなく「金」のくずし字なのである。

3 疑問文

- ・ 疑問詞(なに・なぜ・どう)や疑問表現(…か)に波線を引く。特に、本文前半に出てくる疑問文は主題にからむ可能性が高い。
- ・ 疑問文(主題)を意識しながら読みすすめる、筆者の結論部分に直線を引く。
- Aとは何か…それはBである

例文 なぜ空は青いのでしょうか。—地球の大気が、太陽の光を散乱させるからです。

4 要約・言い換え表現

- ・ 内容をまとめて、ある言葉に置きかえたり、あらためて説明しなおしたりする。要点をまとめてある部分に線を引く。
- ・ 筆者がわざわざ繰り返して説明しているの、強く主張する箇所がある可能性がある。具体例の直後に置かれることも多い。
- Aつまり(すなわち、要するに、簡潔に言うと、結果的に、など)、Bだ
- Aこのように、Bだ

例文 その女の人は彼に何かを告げられて、うなずきながら涙を流した。つまり、プロポーズされたのだ。

5 対比・対照構文

- ・ 対比構造を明確にし、筆者の主張やテーマに沿った対比項に直線を引く。
- Aに対して(その一方、相反して、など)Bである。

例文 われわれは伝統的なものを守っていかねければならないが、一方では、新しいものも取り入れていかねければならない。

6 主張表現

- ・ 意識的に意見や感想を明示してある箇所に波線を引き、SとPをしぼり直線を引く。
- Aと思う(考える、感じる、言う、主張する、など)
- Aにちがいない(でなければならぬ、に他ならない、など)
- Aしなければならぬ(するべきだ、してはいけない、など)

例文 一期一会という言葉があるように、一冊の書物との出会いが大切だと思います。

7 強調・重要表現

- ・ 強調や重要を意味する表現に、SとPをしぼり直線を引く。
- (強調) Aこそ、まさしくA、じつはA、「A」、など
- (最上級) もっともA、第一にA、一番A、最…、など
- (重要) Aが重要(大切、問題、必要、肝心、注意、…なしに…ない、など)
- (基本) Aが基本(基礎、本質、特徴、原理、根本、前提、など)

例文 何度も過去問を解いて、時間配分に慣れておく必要があります。

8 逆接

- ・ 段落冒頭や本文序盤の逆接表現に波線を引く。逆接の後には主張や予想外の事象を本文上に登場させることがある。直線は引かなくてよい。
- Aしかし(けれども、だが、…が、など)B

例文 けれども、科学が進歩しようとも、人間がこの世界のすべてを知り尽くすことはない。

9 譲歩構文

・筆者が受け入れている部分と主張している部分とを区別し、主張部分（本音）にSとPをしぼり直線を引く。一度A（一般論や筆者が本当は否定したい意見）を受け入れ理解したあと、B（主張や筆者が肯定したい意見）を主張する。
たしかに（なるほど、もちろん、むしろ）Aだ。しかし（けれども、だが、）がBだ。
例文 たしかに、多種多様な分別が煩わしいのはわかります。しかし、それは地球環境を守るため、のファーストステップではないでしょうか。

10 反語表現

・文末の反語表現に、SとPをしぼり直線を引く。疑問の形をした主張と心得ること。ただし、筆者がその主張を肯定しているのか、否定しているのかに注意すること。
Aであろうか（いや、Aではない）
Aではないだろうか（いや、Aである）
例文 観たちは私を見て、どうして逃げないことがありましようか（いや、逃げることにちがひありません）。

11 定義・命名構文

・キーワードや筆者独自の定義づけがこめられている。Aはキーワード、Bは記述・抜き出し・選択肢の解答にからむ可能性がある。SとPにしぼり直線を引く。
（定義）AとはBである／AはBということである
（命名）BをAと呼ぶ（名づける、言う、など）
例文 コンパクトシティとは、行政、商業、住居などの機能を市街地に集約し、効率的で移設可能な都市をめざす都市計画である。

12 並列・列挙表現

・主張の要点を並列・列挙してある表現に波線を引く。文章構成を読み取る目印にもなる。直線は引かなくてよい。
まず（第一に、前者、など）Aだ……次に（第二に、後者、など）Bだ
例文 バイオマス発電は、第一に地球温暖化対策、第二に循環型社会の構築、第三に農山村の活性化に寄与するとされている。

13 理由表現

・因果関係を表す表現の前後で、主張部の理由表現に波線を引く。直線は引かなくてよい。
A（主張）である。なぜならB（理由）だから
A（主張）である理由（原因、根拠）はBだ
Bによって（のために、のせいで、のおかげで）Aになる
例文 地球環境に負荷がかかっている。なぜなら、現代人の生生活動が生態系のバランスを破壊しているからだ。

二、小説

① 場面設定

・リード文、本文表記、作者、出典、注釈などからシチュエーションの情報をピックアップして直線を引く。繰り返しの情報はマークしなくてよい。
（人物像）年齢・性別・職業・性格・能力などの個人情報
（場面）時間・場所↓時代設定・環境など
（人物関係）社会的関係・心理的關係・物理的關係など
・場面展開については、時系列の整理、時制の変化、回想シーン、挿入に注意。
・人物関係については、登場人物同士のつながり（形式と程度）に注意。
例文 私がバス停で父の帰りを待っていたとき、その大きなネコがやってきました。（人物像↓一人称、場面設定↓時間、場所）
例文 彼女たちが引越してきてから、しばらくすると田植え休みがありました。（人物↓三人称、場面設定↓時代背景、時間）

② 心情表現

・登場人物の心情表現を遺漏なく見つけて波線を引く。とくに、形容詞と形容動詞に注意。
（直接表現）感情語（「うれしい」「かなしい」といった人物の内面を表している表現）
（間接表現）感情表現ではなく人物の外面に心情があらわれている表現。次の箇所の中で、心情が読み取れる部分に線を引く。
表情・態度、行動・動作、セリフ・モノローグ（慣用句は注意）
情景描写、人物に関する比喩（隠喩は注意）
（主観表現）Aと思う、感じる、……したい
例文 彼女はやつのことと姉と再会することができ、安堵した。（主観↓内的描写）
例文 彼女たちは、母の元気な姿を見てほほえんだ。（客観↓外的描写）